

『フランス文化に親しむ』

(大阪大学 渡邊貴規子先生)

- 《1》 講座：19 世紀の児童文学—ジュール・ヴェルヌ、エクトール・マロを中心に—
- 《2》 日時：2026(R08)年 10 月 19 日(月) 10 時~12 時
- 《3》 場所：住まい情報センター 第一会議室
- 《4》 参加者：受講生:31 名、CA:2 名
- 《5》 概要：マロの「家なき子」、ヴェルヌの「月世界旅行」などの内容紹介とそれが生まれた歴史的背景についての講義でした。

大変中身の濃い講座で、特に先生の「家なき子」に対する熱量を強く感じました。これらの児童文学にも 19 世紀フランスの目まぐるしく変化した政治体制が色濃く反映されていることを学びました。



《6》 フランスの児童文学のあゆみ

- ① 17 世紀： 王族・貴族の間で「子供」という概念が“発見”された。「子供」とは・弱く、・教育を受けさせる必要がある。王子などへの教育用として「ペローの童話集」などが編まれた。
- ② 18 世紀： 啓蒙の世紀で、ルソーの「エミール」の影響を受けた児童文学が生まれたが、物語としてはあまり面白いものではない。
ボーモン夫人「子どもの読本」(「美女と野獣」が収録) など
- ③ 19 世紀： 児童文学の開花、創作童話の充実、児童読者の拡大
 - a) 二大児童図書出版社
 - ・ルイ・アシェット (商売上手：駅で雑誌などを販売する手法を創案)
 - ・ピエール・エッツェル (共和主義者(反王権、反カトリック)：フランス児童文学の黄金期をもたらす)
 - b) 政治体制の変化にともなう学校教育の変化
 - 1793~1804 第一次共和制 (恐怖政治)
 - 1804~1814 帝政 (ナポレオン 1 世)
 - 1815~1830 復古王政

1830~1852 第二次共和制（二月革命を経て）
1852~1870 第二次帝政（ナポレオン 3 世）
1870~ 第三次共和制（大敗北の普仏戦争を経て）

第三次共和制の初期に初等教育改革が行われ、・道徳・宗教教育から道徳・公民教育へ ・地理の知識 ・フランスの歴史 ・法律上の常識および経済 ・自然科学などが盛り込まれた。

ナポレオン 3 世のとき、オスマン知事によるパリ大改造が行われ、経済バブルが発生して裕福な庶民が出現し、その子弟への教育として児童文学が広く普及。

c) 1878 年に出版された「**家なき子**」は、・細やかな世相の反映、・不正告発・児童の権利擁護を訴える手段、・理想の教育を含ませ、美しく情緒的な小説でもある。

d) 自然科学を取り込んだ作品が、今でも広く読まれているヴェルヌの小説群である。

・十五少年漂流記 ・八十日間世界一周 ・海底二万里 ・月世界旅行 など

≪7≫ 講義の終わりにサイレント映画「月世界旅行」の紹介があった。

- ① 今から見ると科学に基づかない面が多々あるが、物語としては興味深い。
- ② 小学生の時、図書館で「月世界旅行」を手にとり、冒頭に「人が乗り込んだ砲弾を、大きな大砲で発射させて月に向かう」と記載されていて、大いに興奮したのを今でも覚えている。

≪8≫ 終わりに

① 先生は普段、大阪大学の学生を相手に講義している。真面目な学生たちであるが、講義への反応が「薄い」。それに引き換え、oncc フランス文化での講義は反応があり、大変勇気づけられておられる、とのこと。

② フランス通の CA さんとブラジル通の CA さんのお二人が、コンビネーションよく教室を運営されていて、いつも愉しく受講させていただいています。